

# 令和5年度守恒小 「主体的・対話的で深い学びの実現

## ～生徒指導の要素を含む『学び合い』の活用を通して～

### 5年 算数 「図を使って考えよう」

**本時の主眼:** 数量の関係を図に表す活動を通して、共通部分に着目して置換の考え方をを使って問題を解くことができるようになる。

**単元を通して目指す子どもの姿:** 「仲間をだれ一人取り残さない」仲間意識、「授業が楽しい」「分かった」「安心できる」「うれしい」といった達成感や感動を味わう。

**手だて①** 考えるのが困難な児童に対してヒントカードを渡す、前に集めて図の説明をするといった支援を行う。

**個人思考の姿:** 見通しをもたせ、個人思考をもつことができるようにする。

**手だて①** 前時の復習など課題解決につながるヒントを示し、自分の考えをもてるようにした。

**「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿:** 交流する活動の中で、友達の話と自分の考えの相違点や共通点を見つけ、わからないところは友達にたずね、学びを深める。

**手だて①** それぞれの考えの図を並べ、共通点を考えた。

**手だて②** 分かりやすくするために、線分図を使用した。

### 成果と課題

#### 単元を通して目指す子どもの姿

**手だて①** 考えるのが困難な児童に対してヒントカードを渡す、前に集めて図の説明をするといった支援を行う。

○考えることに対して、苦手意識をもっている児童への思考の支援を行うことができた。

●ヒントカードを基にすることで、一つの考えに縛られがちになる。

●自分の考えをもっている児童が、自信がもてず不安になりヒントカードを使用することにより、思考の幅が狭まった。

#### 個人思考の姿

**手だて①** 見通しをもたせ、個人思考をもつことができるようにする。

○前時の学習を視覚的に表すことで本単元の導入にスムーズに入ることができた。

●その一方で、前時の考えにとらわれ、新たな発想をすることができず、多様な考えを引き出すことができなかった。

#### 「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿

**手だて①** それぞれの図を並べ、共通点を考えた。

○順を追って掲示することで、考えを整理することができた。

○共通点と相違点を視覚的に見て、考えることができた。

○新しい意見を取り入れることができた。

○いろいろな人に教えるのが楽しいと友達との交流に喜びを感じていた。

●どうしても受け身になってしまい、聞くだけになってしまう児童もいた。

**手だて②** 分かりやすくするために、線分図を使用した。

○教具を使用することで、視覚的に分かりやすく、考えが深まった。

●線分図はグループに1つ用意してもよかった。

#### その他

○本単元では、学び合い1・2の両方を入れて取り組むこともできるよう、学習内容を考えた。

○まとめをする際に、まとめるのが苦手な児童に対して、自分でまとめることができるようキーワードを掲示した。

●日ごろから、学び合い1・2を取り入れた、授業を行うことが大切であると感じた。

